

平成22年度藤沢市市民活動団体提案協働事業申請一覧表

No.	事業名	団体名	企画概要	事業期間	H23年度 事業費 総額	H23年度 負担金 申請額
1	地域ボランティア 育成派遣事業	NPO法人 シニアライフセラー 研究所	地域では独居高齢者・引きこもりなどの問題、地域のつながりの問題、介護問題など、様々な課題があります。当法人は、「街の便利屋さん養成講座」と「(新型)健康運動アドバイザー養成講座」を実施することによって、地域に埋もれている主にシニアの人材を発掘し、地域で活躍できるように育成し、地域と結びつけていくことで様々な問題解決の糸口にしたいと思い「地域ボランティア育成派遣事業」を行います。単に講座を開催するだけでなく、講座を修了された修了生をまとめて団体を結成し、仲間作りや生きがい作りをサポートし、地域で活動するまでを支援する、実務的な事業です。1人でも多くの方をつなぎ、地域福祉の向上を目指します。	H23年度 (単年度)	675,000	300,000
2	ジュニアライフ セービング教室 事業	NPO法人 西浜サーフライフ セービングクラブ	藤沢市は全国有数の海水浴場を有し、年間400万人を超える海水浴客が訪れている。しかし2007年には2名の中学生が溺死する事故が発生するなど、子供を含め多くの水難事故が発生している。また海に近接しているという立地にありながら、小中学生が海について学ぶ機会が非常に少ない状況にある。 そこで、ジュニアライフセービング教室では小中学生を対象とした、海の知識を学ぶプログラムを実施し、水難事故を減少させることを目的としている。事業内容は、希望する小中学校に基本的な海の知識及び安全管理に関する講演又はプールでの講習を12回開催する。さらに現場の教職員による海など水辺の安全教育に関する調査研究を行う。	H23年度 (単年度)	1,684,000	1,684,000
3	パソコン出前病院 パート2事業	NPO法人 湘南ふじさわ シニアネット	昨年度助成金事業で、「パソコン出前病院」を企画し市内の各センター(11箇所)で実施いたしました。参加された方は、約80名でしたが、その参加者にアンケートをしたところ、パソコンの不具合に悩んでいる方は非常に多く、定期的な開催を要望する結果を得ました。 市では毎年、「インターネット安全教室」を各公民館(14箇所)で実施していますが、こちらは映像をまじえた講義だけの開催である。 今回の企画は、この安全教室と同時開催で、実際にトラブルをかかえているパソコンを持ってきて頂き、講義を開催している時間にパソコンの診断を行い、講座終了後に診断結果の説明・対応の指導・軽微な整備作業の実施をおこなう。	H23年度 (単年度)	870,000	870,000
4	藤沢の「食」によるシ ティプロモーション発 展事業	NPO法人 地域魅力	地域魅力は、藤沢市の魅力を「食」という媒体を通じて強くアピールし、市内外に多数の藤沢ファンを誕生させることを目的として、調査研究や試作に基づいたシティプロモーションを実践してきた。協働事業としての実施を想定する最終年度となる今回の提案では、仮称「藤沢炒麺グランプリ」の開催を検討するなど、引き続き「藤沢炒麺」を市内に根づかせるとともに市外に対しても広くアピールし、観光の目玉として打ち出すことを目的とする。さらに、「藤沢炒麺」をきっかけに藤沢の「食」に興味関心を抱いた人々に対して、他の食メニューへの誘引をも図れるよう、地域のいろいろな団体と連携しながら総合的かつ発展的なシティプロモーションを図る。	H23年度 (単年度)	3,037,520	1,500,000
5	「市民景観アドバイ ザー(指導員)」を養 成する事業	鶴沼の緑と景観を守 る会	① 藤沢市の自然環境の保全に多くの問題がある。 市民の自然環境に対する満足度は高位であり、対策の必要性は低位である(100人委員会) ② 藤沢市の森林緑地率は33年間で約半減の8.59%、鶴沼地区では緑被率が46年間で約半減の30.6%(1992年)の地区もある。 ③ 残された緑と景観などを守り、藤沢らしさを大切に住民参加の環境保全、松の緑の普及活動を継続的に行い、藤沢の文化を次世代に継承させる必要がある。 ④ 景観・みどりを守ることの大切さを学習し、自然・景観問題に対応する緑の指導者として「市民景観アドバイザー」を養成。「みどり講座」を開設し、行政、まちづくり、緑の専門家の指導により学習する。	H23年度 (単年度)	1,355,259	768,359
合計			5団体-5事業		7,621,779	5,122,359